



高瀬中だより

郡山市立高瀬中学校

令和4年7月6日発行

《第17号》 文責：校長 齋藤高志

高瀬小中CS小中連携事業を行いました

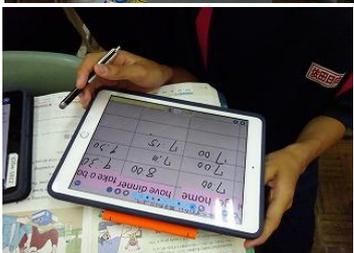
1日(金)に、高瀬小中コミュニティ・スクール第1回小中連携事業を実施しました。本事業は小学校での学習内容や学習方法を踏まえ、小中9年間を通した「分かる・できる」授業づくりを推進することを目的としています。小中共通の課題である「伝える力の育成」と「ICTを活用した授業改善」に焦点を当て、小中教員が協働で教材研究(事前準備)を行いました。今回は中学校1年生と3年生の英語の授業を中学校と小学校の教員がT-T(チームティーチング)で行いました。その取組を紹介いたします。

また、高瀬小中学校運営協議会の委員の方も参加し、小中教職員と一緒に学校地域協働活動について協議をしました。(協議内容は次号で)

3年2組英語科 大木先生(中)、鈴木先生(小) オータ・ジョセフィン先生(AET)



1年1組英語科 林先生(中)、遠藤先生、小宅先生(小)



今まで学習した英語表現を使い、他へ伝えたり、会話したりする力を育む授業です。生徒3人が1つのグループとなり、3人の先生が歓迎される役を演じました。授業では、生徒同士で教え合う場面も見られ、それぞれの生徒が歓迎する気持ちを英語で先生方へ伝えることができました。

授業に関する研究協議会



授業後に小中教員が1年と3年の教室に分かれ、小中共通の課題である「ICT(タブレット端末)の活用」「書く力」「対話する力」「場面設定」を観点に、研究協議を行いました。成果と共に、今後の授業改善につながる意見がたくさん出されました。以下まとめです。

What time ~?の表現を使って、時刻をたずねたり、答えたりし、コミュニケーションする力を育成する授業です。ペアや全体でインタビュー活動を行い、聞き取ったことをタブレットを用いてメモすることで、たずねた相手の習慣を知ることができました。

事後研究会協議内容の概要 ○成果 ●課題

- 「ICTの活用」について
 - 小学校からタブレットを使い慣れているので、過去に学んだことを復習するのに便利です。
 - ロイロノートの機能で
 - ・「アンケート」機能をぜひ使いたい。
 - ・「共有ノート」機能は、話し合いをまとめるために便利です。
 - ・単元ごとノートを作成すると振り返りがしやすい。
 - 小学校の「ロイロノート実技研修」に中学校も参加できればよいのではないのでしょうか。
- 「書く力」について
 - まとめ段階で、学習プリントに記入させていたので、学習内容が頭に残るのではないのでしょうか。
 - 個人差に配慮した資料の準備がなされていました。
 - 話す活動だけでなく書く習慣をしっかりと身に付けることが大切です。

- 会話でコミュニケーションする力と書く力のバランスを考慮して授業を行う必要があります。
- 「対話する力」について
 - 対話を続けるためには、
 - ・ 会話にしっかりと親しむ活動が必要です。
 - ・ 会話する者同士の情報が必要です
 - ・ お互いに聞き取る力が必要です。
 - 課題把握の際、語句を丁寧に扱うことが必要です。
 - 分からない表現があった場合、ジェスチャーや表情などで伝える方法、スキルを身に付けることも大切です。
 - 「場面設定」について
 - 身近な題材は、
 - ・ 親しみを持って活動できます。
 - ・ 意欲的にコミュニケーションにつながります。
 - 学習する生徒自身が理解できる、理解しようとする視点を与えるために場面設定は効果的です。